市民の声特集

……合併してよかつたか？………今後にのぞむもの……　……2……

○当初としては不便であり（地域が広すぎる）人情などの交流がなく、行政面でも経済その他で面白くないが、将来を期待している。
○市の課長以上の人が成るべく広く各部落を廻り、地理人情風土を勉強し、適当な政策を樹立することをのぞみます。
○赤字整理のために支所の廃止もよいが、金銭の出納は各農協に委議（納税その他）即ち市金庫を農協にしてはどうか。
○農村都市であるから、農業政策に重点を置き、営農合理化により市の農民を富ませるとともに同時に市の担税力を強化してはどうか。

（植田・浜田広信・農50）

この一年間を回顧して合併してよかつたと諸手を挙げてよろこぶ市民が何程あろうか？これは何人が為政者であつても、市民の要望に応えることは先ず無理な相談であると私は思う。何故なれば申すまでもなく、今までの段階合併の過程においてそれぞれの町村が執つた放漫財政の酬いであり、亦これ等の行き方をそつとして唯国の方針に従い合併を推進した指導機関の大きな誤りであると断定せざるを得ない。一般市民はこの合併をなかば宿命とあきらめているもののやはり事市政の話ともなれば、旧村当時をしのぶ。大きな赤字を承知で市の発展と市民の福祉を口約した市長が、いざ市長の椅子に座わるや、財政窮状を訴え全くお手上げの格好である。市民は税金は上つたが道路はちよつとも修繕をしないとか、よくなつたのは職員の給料と議員の報酬で、強くなつたのは職員組合ばかりだとか、市民の険の声は相当きびしいようだ。こうした中に自主再建の方向に進む方針が樹てられ、今議会に提案される事は非常によろこばしいことである。再建案は長期に亘るため周到な計画の下に立案されるであろうけれども、市民の福祉と発展を無視した計画案は真平である。執行部、議会共々慎重に慎重を期して立派な基盤を樹立されん事を望む。このためには先づ地区的感情偏見は一切捨て貰いたい。先づ手はじめとして職員の整理まことに結構である、これからは少ない人で市民のサービスに応え事務能率の向上を計る事が先決である。職員組合も己れの権利のみ主張しては市民は同情しない、自分もまた市民である事を忘れないでほしい。この長期にわたる一大決意を遂行するには、市民もある面では偲び難きを偲ばねばならぬこともあり、やゝもすると執行部と住民の間に意志の疎通を缺ぐおそれもあると思はれるので市政のあり方を常に住民に周知徹底さす機関として広報の持つ意義は非常に大きい、今の広報は率直に云つて執行部の回覧板の感がある。市民に底流する声を紙面の広場に出すよう努力されたい。要は市長自ら範を示し市民より愛される行政の下に南国市建設の捨石とならん事を望む。

（黒滝・吉川芳富）

町村合併は町村民の期待や指導者の言葉とは凡かけはなれたと云うよりもむしろ逆な方向にさえ進むものだと云う事を今痛切に感じています。役所は遠くて不便になり、税金は次第に高くなるが、村道から市道と字は変つたが変らないのは道ばかり、道が悪くなれば川の氾濫も益々ひどくなる。南国市となつて面積も広くなれば市議の地元でなくては道路の修理拡張も出来ないと考えるはひがみ根性だろうか、合併当時赤字総額一億数千万円と云う声を聞いた時非常な不安を感じたが新しい市長と市議の手腕を期待しつゝ一ケ年を過ぎた現在この期待も全く裏切られ、その赤字の破寄がなんと百姓のトラクターにまで食い込んでくるとは恐れいる。又昔にかえつて牛でも飼わねばなるまい。市政で最も必要な事は市民の福祉と財政の確立にある筈です。これを一家にたとえてみても経済を無視して経営は成り立たないし勿論家族の幸福も無い訳です。市長さん、議員さん市と云つてもお隣りの高知市とは全く異つています、それに南国市はほんとの赤ん坊です、余り高知市を真似て開口を広げない様にして下さい。市長さんのひざもと三和の砂浜へ家を建てる様なもので、いくら人夫を沢山雇つて柱を立て瓦葺を急いでみても、土台無しではどだい役に立たないでしよう。益々増大する人件費にも英断が欲しいものです

（藤本　盛郎）

南国市という言葉自体がおかしかつたが、いまではその「なんこく」もおかしくなくなつたのは自然の云いならいでしようか。本庁や支所え行つても一般にぶつきらぼうで婦人、子供がきらつている、もう少し親切心がほしい。再建整備法が適用されるようだが、冗費節約の空念仏をとなえるより具体的な案を示されたい、唯職員を退職さすことが再建整備だといえば馬鹿の一つぼおえで終るといえよう。職員の中にも大変親切な人もいて気安くものを頼める人もいる、大いにその職員を称讃すべきだ。争議をおこした、門に赤旗がならんでいる。まるでどこかの国へ行つたようだ、争議といえば、「赤旗」、せめて日の丸でもかゝげて日本人の誇りをもつて戦えば大いに声援もしよう、市民にも愛されよう。

（植田・門田論・38）

南国市が誕生して丁度丸一年、大きな期待のうちに上水道の増設、香長中の建設、国府田電源開発、里山開墾さては無灯地区の解消等小規模ながらも田園都市の風貌を実現するまとまりのある事業が漸次完成しつゝある、とはいえ内部では職員の整理、行政機構の縮少などを余儀なくされ、前途多難が予想され、再建整備の適用と共に一切の補助金制度などがストップと聞かされては明より暗の方が強いと云う感を受ける。

である、と、市民への呼びかけも頷けるのですが、各地区とも賛成の上合併した今となつて他に責任を転嫁すると云う事よりも要は自主再建の基本線を樹立する事が一番大切なことではないでしようか。一億二千万円と云う赤字は西村市長がこしらえた負債ではないが世の風向きはいつの間にかその衝の最高責任者にそれを背負せてしまつているのはどうしたことか？

昨年全市に展開された市議選のポスターに一億赤字の処理、健全財政の確立を旨頭に掲げていなかつた候補者はいなかつた筈です。改選を前にした議長、副議長のポスト争いも結構ですが一年前必至になつて市民の前に訴えた公約を今一度思い浮かべていただき、足下に迫りつゝある難問題の打解に努力して下さい。周到な計画、誤りのない判断と信念に立脚した市政が、過ぎた一ケ年の尊い経験を基にしてこれから実施に移されるとすれば多少の不自由と犠牲も、又止むなく所謂筋の通つた市民の納得の出来得る線に焦点を合せて行く可きだと思われます全職員全議員が一丸となり隔意ない再建施策の話合いをもつなれば融和と愛情の市政が必ず生れて来ると確信します。負債の償還は決して生やさしいもので無く熱意に充ちたファイトを燃す事により漸次達成されると思います。

（宍崎・野島浩洋）

南国市の将来に望むものは第一に財政の安定と充実で赤字財政のなやみを如何にして解決し、健全財政を打立てるかであります。合併当時の状態は各町村かならずしも同一ではありませんが現在は同一市民として、いたずらに帰らないむかしを云々するより一丸となつて将来の発展に協力すべきではないでしようか？財政整備の為には、執行部は真実と熱意を以て市政を運営し、公務員は市民の為の政治を念頭に迅速丁重をモツトーとし責任を以て任務を果し、市民は一部の利害の為に全市の幸福を忘れることなく、伸びんが為の一時の収縮に耐え、しばしの間の辛棒と努力を続けることによつて達成されるでしよう。小利を捨てゝ大極を見つめしばし雷雪に耐えてこそ花咲く春も近いのでしよう。お互に相手の立場を理解しながら話会い、計画し、実践して一日も早く市政を確立していたゞき度たいものです。

（後免町・利岡完）

婦人会のあり方について

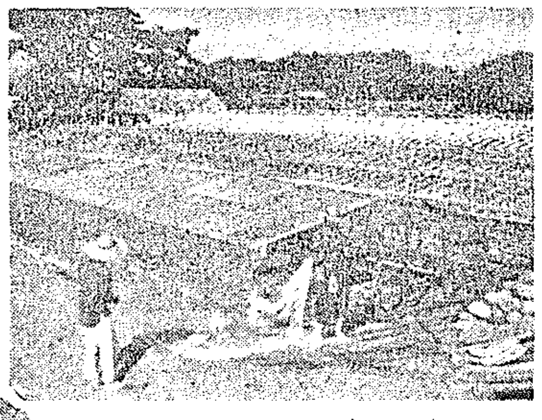
公田正子

婦人会のあり方につきましてあまり芳ばしくない噂があり私も前々から不満に思つていますが、誰も進んで申し出る者はなく、たとえ申し出ても黙殺され、主に旧町村の会長、副会長さんの独裁で事を運んでおられますのは遺憾なことです。そんな風な婦人会ではとても粛正は出来ませんので、広報を借りて一般の婦人方の御批判を仰ぎたいと思い拙ない筆をとりました。

一、会の行事のこと
婦人会は会員全体のものだと思います、行事は一部の者だけでなく大多数の者が参加出来るように心がけてやつてほしいものです。つまり一般の家庭の誰にでも関係のある事柄を取り上げ、皆にゆきわたるようにして下さい。たとえば、お茶やお花や、踊などは一部の者にじか興味がありませんし、そんなことよりも社会常識とか政治常識とかいうような教養面で、現時代に応じ新しい時代に生きてゆくための婦人勉強に力を注ぐように会を方向づけていつてほしいと思います。そして時宜に適した問題を取り上げて勉強し、婦人として物の見方や考え方をしつかりと掴むようにしたいものです。

二、旅行のこと
婦人会ではよく旅行の企てをしますが、これは見聞を広め気を養うのによいことでであるとしても、旅程があまり遠過ぎたり、旅行日数が多すぎたり、旅費が嵩み過ぎたりして、一部の者しか利用出来ない場合が多く大部分の者は置いとけぼりになつているのが現在の有様です。旧町村の会長副会長さんは東京、京都大阪、瀬戸内海、九州などと、よくもまあ、お出になられたものと皆カンシンしています。あれは補助金や会費を幹部でうまくつかつているのですワという噂が伝わつています。これに対して自分の金でゆくのに文句はない筈といわれるかも知れませんが、それなら個人でゆけばよいので婦人会からとしてゆく所に疑問があるのです。又補助金は会全体のものでありますから一部の者だけにしかも多額の補助をするのは誤りでしよう。会計でも町村婦人会では一般の者には知らされていませんのでどうなつているかわかりません。こんな幹部が上層にいる限り婦人会がよくなる筈がありません。何にせよ、万年幹部というのはどうも弊害を生ずるものですから一期毎に交代するというのが望ましいのではないでしようか。

以上は何処の婦人会のことであるとはつきり書かないことにしますが、こんな例があると思われる所は此の際自粛されるがよいとお思いになられますでしよう。



産……業

加温園芸　そ菜　二番稲も豊作

十市を中心とする市内の加温園芸は本年は大幅な伸びをみせ、久礼田以南の各地区ではビニールハウスが次々に建設されている。作物はキユウリ、ナス、ピーマンなどで二億数千万円の売り上げが予想されている。（写真上は十市地区のビニールハウス建設風景）

※　※　※

また一般そ菜の作物もよく市内外の青果市場へ出回つているが、国府地区では大根の出荷がさかり。小春日の太陽のもとで一家あげての水洗いに多忙だ。

※　※　※

二番稲も非常な豊作だ。刈り取りは先月末から行なわれたが、倒伏もなく、作業は予想以上のはかどりようだつた。全国的にみても岩戸以来の豊作といわれた昨年を上回るといわれている。一方三十五年度食糧管理特別会計では、米麦の赤字四百五十億円に上るといわれこの原因の一つには生産者米価引き上げがあるという。これがため南全農相は、「消費者米価の値上げを考えなくてはならぬだろう」といつている。

（写真は国府における出荷前の大根の水洗い）

総合開発と香長平野（完）

浜田春水

引水路また見苦しい不能率なものだ。現代眼でみるならば日章前浜を通じて自然堤防として一連の高位相を形成している県道山田前浜線の沿線附近に幹線水路を南下さすべきであつた。かくすれば数条の小分水幹流と地区的氾濫も解消され、また問題の多い堰床も田村井から消え去るわけだ。

田村前浜の堺に多年の難物フクラモト堰がある。田村井を堰止めて、前述した常堀井懸りの南前浜平野に展開する前浜西野から三和東南部への養水を送つているが、この堰や引水路も厄介ものだ。香長平野の大勢はその中央部を北から南へと伸んだ扇状地の高位相を連ねている。この高位部を南下する大幹線用水路を形成さすことによつて、多くの無理な引水路前永田井や藤の宮井常堀井フクラモト堰その他の複雑な水利と氾濫の悩みは解消されてしまう。この大幹線用水路は田村井筋の合理化に止らず、原始流改造の時久井の不合理にも取つて替ることができる。時久井また上流部から下部分流に至るまで無理な技巧が各所で施されている。これがため局部氾濫もみられ前永田附近のような高位地帯でさえ、野面に溢れている。前に述べた中央幹線用水路は田村井筋を始めこれら各所の悩みを一掃するだけでなく、大埇東部から田井方面以南一帯の平野へも養水を送ることができよう。この方法はまた他の高地帯にも適用したい。眼を外に向けると愛知用水が画期的だ。大愛知平野の東方高位地帯を南下し、更に知多半島の胴中を流下せしめる新設用水と全く同一の考え方であつて、その雄大な事業に較べては香長平野の中央幹線は足元にも寄付けまい。しかも既存水路を大部分は利用することで容易に実現されよう。これに限らず香長平野の若返り施術がまだ見られなく、時代の足取りが不振であつたのはどうしたものか。

平野の西部にも目を移してみたい。平野にとつては大切な自然の排水路原始下田川がある。岩村を斜断して下野田を南下し、更に関部落内を南流して現下田川へ続いていた。だが上流岩村で一部開拓のために盛田的に堰めつけられ、以下数々所が田村用同様に無理な引水技巧を加えた通水障碍が横たわつているのは遺憾だ。これに国道や吉田の堤塘などのため、七月二十七日の短時間の豪雨にさえ野田口の東面は広く押流れていたというのではないか。舟入川水利に転換されなかつた前は、遥かに広い川であつた確証もあがつている。それが今日の浅間しい姿に転落したのは、舟入水利による減水によつて農家の手で次第に両岸から狭搾されてきた人工悪化の標本でもある。他の流路もまた同様だ。この川筋も本然の開放流路に復活せしむべきであろう。

西すれば新川がある。胴中の改修はともかく上流には複雑な悪条件が絡らみ、その尻は僅か一間幅に搾ぼられ、残半は西に頭をねぢまげられて山なす芥を呑みながら深々と伊達野方面に養水を送らねばならない。新川の消化し切れない氾濫は県道の増強となり、これはまた輪中氾濫現象化のため農家の呪いの種となつてきた、一次産業を生命としている香長平野が、第二次第三次産業の下敷きとなりつゝあることに気付くものなら、平野の構造も昔のままを踏襲することさえも不可能と断ずるであろう。

今日香長平野改装の先手を打つておくでなかつたなら沈下橋のように平野各所に沈下農道もできだす時代をやがて迎えるようにもなろう。介良の取水にも無理がみられトイ川の前ケ池附近の堰上げ引水も問題点であり、その他不合理な所も散見されるが今までに述べた各所の悩みは、平野一体観に立つての綜合処理に待たなければ古屋の造作にも似た局部改修では満足な期待が保証されないであろう。